

1

January

- 3 [火] 豊橋 New Year's Concert 2023 ◎PLAT アートスペース
- 5 [木] プラットワンコインコンサート
石塚和基「ヴァイオリンでスパイシー&ファンキー」◎PLAT アートスペース
- 7 [土] 豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター CARM
2022 年度防災シンポジウム「歴史から学ぶ災害対策」
◎PLAT アートスペース
- 9 [月・祝] 豊橋吹奏楽団「New Year Concert ～recollections～」
◎PLAT 主ホール
- 9 [月・祝] 大崎しおかぜ太鼓 小編成ミニライブ「いざっ!!」◎PLAT アートスペース
- 14 [土]—15 [日] 和太鼓志多ら「響奏」◎PLAT 主ホール
- 14 [土] NPO 法人東三河自然観察会 創立40周年記念講演会
「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然!」◎PLAT アートスペース
- 15 [日] 株式会社名大社 第187回転職フェア◎PLAT アートスペース
- 21 [土] 第10回 桜丘高等学校・ダンス部自主公演
「THE NEXT EPISODE」◎PLAT 主ホール
- 21 [土] メ〜テレ60周年「第7回高校生ダンスバトル選手権 決勝大会」
◎PLAT アートスペース
- 22 [日] 豊橋落語天狗連「第9回新春天狗連名人会?」◎PLAT アートスペース
- 24 [火] 小曾根真 ニューイヤー・ジャズライブ ディキシーランド・メモリーズ◎PLAT 主ホール
- 25 [水]—26 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第294回例会
劇団文化座公演『炎の人』◎PLAT 主ホール
- 28 [土] 成田記念病院2023がん治療市民公開講座
「がん治療のコラボレーション革命」◎PLAT アートスペース
- 29 [日] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
オープニングイベント 中井貴一シネマ&トーク◎PLAT 主ホール
- 31 [火] ぶらっと落語会～一月晦日の初笑い～◎PLAT 主ホール

2

February

- 4 [土]—5 [日] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLAT アートスペース
- 11 [土・祝]—12 [日] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLAT アートスペース
- 14 [火] プラットワンコインコンサート
濱田紗治加「心躍るリズムと音色
～知られざる打楽器の世界へようこそ～」
◎PLAT アートスペース
- 18 [土]—19 [日] 木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』
◎PLAT 主ホール
- 18 [土] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
ピーター・バラカン Special◎PLAT アートスペース
- 19 [日] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
南壽あさ子 弾き唄いワンマンライブ◎PLAT アートスペース
- 23 [木・祝] ビーピング・トム『マザー』◎PLAT 主ホール
- 23 [木・祝] 裕子ピアノ教室フロイデ
ピアノコンサート2023～Freude an der Musik～◎PLAT アートスペース
- 25 [土]—26 [日] 第21回とよはしまちなかスロートウン映画祭
スロートウンシネマ◎PLAT アートスペース



表紙／成河『桜姫東文章』

撮影：吉次史成

裏表紙／小曾根 真『ニューイヤー・ジャズライブ』

Photo：Kazuyoshi Shimomura (AGENCE HIRATA)

企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団

編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限公司STAFF

令和4年12月発行59号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2023年1月～2月

vol. 59



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

PLAT NEWS



CONTENTS

- 表紙
『桜姫東文章』
成河
- 2
INTERVIEW:1
小曾根 真
ニューイヤー・ジャズライブ
ディキシーランド・メモリーズ
ディキシーは、保証付きで幸せになれます。
小曾根 真
- 4
INTERVIEW:2
『ぶらっと落語会』
一月晦日の初笑い
落語の楽しさは、来てもらえばわかります。
桂 文月
- 6
INTERVIEW:3
木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』
木ノ下歌舞伎として16年
価値観にチャレンジする演目です。
木ノ下裕一
- 8
TOPICS:1
ビーピング・トム『マザー』
社会を切り取る身体
白井 晃
- 10
TOPICS:2
東京フィルハーモニー交響楽団
特別演奏会
豊潤な響きと熱いクライマックス。
飯尾洋一
- 12
INFORMATION
PLAT
主催公演情報
- 14
PURA PURA
バラコの寄り道ぶらぶら
「カーテンコールを待っている」
- 15
SUPPORT
TICKET CENTER
- 裏表紙
『ニューイヤー・ジャズライブ』
小曾根 真

ご存知三遊亭小遊三をはじめ、
豊橋出身の桂文月など人気者・芸達者が勢揃い!

『ふらっと落語会』 一月晦日の初笑い

2023年1月31日[火]18:30開演

出演=三遊亭小遊三、桂文月、ナオユキ、三遊亭金の助ほか

会場=PLAT主ホール



矢作——豊橋出身でいらっしゃいますが、落語家になろうと思ったきっかけはどのようなところからだったのでしょうか。

文月——豊橋にいる時にラジオやテレビでよく落語は聞いたり見たりはして、いいなと思っていた。東京から帰って来た時に、「笑点」の大喜利の前の落語に師匠が出ていた。次の日にも、「なごやか寄席」のラジオ放送で、同じ人の声が、それもすごくおもしろかった。東京に帰る深夜バスで落語を聞いていたら、また同じ人の声が聞こえてきた。その放送で桂文治と名前を知り、図書館で調べたら、滑稽噺では1番だし、弟子を育てる「名伯楽である」と書いてあった。とにかくおもしろかったし、3日連続でもあり、師匠のとこに行ったのです。そしたら「お前よく名伯楽なんて知ってるな」と言われて。「ボクシングでも、いいトレーナーのこと名伯楽と言うんで」と言ったら、「なんだお前やってたのか」「ちよつと」。そのへんも、気に入ってくれたらしい。

矢作——落語家として弟子入りすると、どのようなステップで、人前になるようになるのでしょうか。

文月——一門によっても違います。例えばうちは、落語芸術協会で、寄席があり、そこに出るには、僕の場合で言うと、93年に22歳で入門。鞆持ちで師匠のあとくつついて行って、見習いで楽屋に入り、前座は楽屋の中でもいろいろやらないといけない。楽屋に入る前か終わってから師匠んちに行き、基本の話を教わり、師匠が「こいつ一席覚えたら」と、高座に上がれるようになります。前座の中でキャリアが一番上の人を立前座といい、その人がネタ帳を書いたり、時間の調整を担って仕切ります。「今日お前上がっていいよ」と立前座に言われて高座の経験を積み、毎日毎日楽屋に行って決まりごとを4年間で覚えるのです。

師匠が地方に呼ばれた時には師匠の身の回りのことや、会場の照明やマイクのテストが一番下の者の仕事。それぞれの師匠の好みとかがあり、それを劇場のスタッフさんや係に言って、師匠が気に入らないと高座終わってから怒られる。そうして二ツ目になって自分で始める時に、自分で小屋借りたり、会議室で台を高座にして、毛氈敷いてやったりということを教わるのです。

矢作——前座から二ツ目に上がった時の、大きな違いはなんですか。

文月——二ツ目になると芸術協会の一員と認められる。着物も前座の時は着流して、二ツ目になると紋付羽織袴を着る。二ツ目はだいたい10年前後、その間に噺家としての基礎を自分の中に培っていく。前座の時は一人前ではないので。僕の前座の名は東治で、住所や電話番号は師匠の「文治方、東治」。しくじったら全部師匠の責任です。理事会で芸術協会の前座として認められないと二ツ目になれない。休みなして毎日行くことが修行で、二ツ目になると自分の出番の時だけでいい。

短い噺ばかりではなく、たまには「一人で30分やってください」と言われたりする。そういう時のための噺も覚えながら、真打の準備です。

矢作——古典中心とか、滑稽噺とか、方向性づけは二ツ目の時に探していくのですか。

文月——入門する時に、自分の感性にあった人の弟子になりますから、こうなりたいたいとか、こういう噺でと、もう決めていると思います。僕はそうでした。おもしろくていいなと思って入門してもっと触れて。それぞれありますが、一門というか、なんとなく似てますよ。ただ入門してから変わる人も居ます。100人以上真打はいるし、前座・二ツ目で見ている間に、「俺こっちのほうがいいかな」となるかもしれません。そのへんは自由でいい。これだと決めつけ、それで行けばいいし。変えて良くなる場合もある。それも修行ですね。

矢作——二ツ目で10年ぐらゐ積み重ねて、真打も大きなハードルですか。

文月——真打になると弟子を取ってもいい。それが大きな違い。真打という世間的にも認めてもらえる。ピンキリですが、一応それだけの資格はありますよということ。二ツ目になった時は開放された気分があった。でも真打になったらなつたで、修行は一生涯続きますからまた大変です。日々いろいろ変わって、見たり感じたりしながら、それを高座で表現できるようにしたいし、お客さんと一緒にやり取りができると僕も楽しいのです。だから、できるだけ共感し、一緒に楽しくなりたいたいですね。しかし、その楽しいがまた今、細分化していると思うのです。特にネットというか、スマホになってから。

矢作——私の印象では、落語は時間をかけて積み上げて、構築していく芸術に対して、ネットやSNSはどちらかというと単発で、そういうものではない価値としての落語が、より重要なかなと思います。

文月——刹那的ですよ。今は、ネットで「おもしろい」とか、「いいね」と、すぐ反応できるのですが。僕らは、前座・二ツ目の時に、先輩や師匠たちのすげえ高座を絶対経験するのです。今でも忘れません。今の見る人たちの感性が、わかんないと言っては駄目ですが、目指すなら、ああいう高座やりてえなと思います。だいたい、僕、Twitterもホームページもやってないです。ただ最近、スマホがないとチケットを買えない。ロックのライブが好きで行くのですが、そういうのでスマホも活用しなきゃいけない。今日もここに何時に到着するのに、何時がいいかという調べ物はすごく便利ですが、自分の発信は、知たきや高座観に来いよと。だから時代遅れかもしれないです。

矢作——豊橋のお客さんに対して、何か一言メッセージをいただくと。

文月——来てもらえばわかりますよ。

矢作——1月晦日の31日を楽しみにしております。

落語の楽しさは、
来てもらえばわかります。

出演
桂文月

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

桂文月[かつら・ふみづき] / 地元豊橋出身の落語家。師匠十代目桂文治譲りの本寸法古典落語の演者で、人物描写が紡ぎ出す江戸時代の空気感には定評がある。自転車での往来を趣味としており、仙台にある寄席「花座」への出演の折にも愛車での往復にチャレンジ!さて結末は? (芸歴)1993年9月十代桂文治に入門。10月前座。前座名東治。1997年9月二ツ目昇進、快治と改名。2007年5月真打昇進「快治」改メ「文月」となる。(受賞)2004年にかん飛び切り落語会努力賞



2023年2月18日[土]、19日[日]13:00開演

作＝鶴屋南北

監修・補綴＝木ノ下裕一

脚本・演出＝岡田利規

出演＝成河、石橋静河ほか

会場＝PLAT主ホール

木ノ下歌舞伎

『桜姫東文章』

深淵に沈み、また浮かぶ恋
激動する世界で、いまを問い直す「桜姫」

矢作——今回木ノ下歌舞伎として、岡田利規さんを演出に迎え『桜姫東文章』に取り組もうと思ったのはどういったところからでしょうか。

木ノ下——まず岡田さんに何か作品を作ってもらいたいことが先行し、演目を決めるのが後になりました。オンラインで岡田さんと密にお話ができる時期でもあり、いろいろしゃべりながら演目を決めていきました。『桜姫東文章』の他にも2作品、岡田さんに合う作品をご紹介します、最終的に、お互いに「桜姫が一番いいね!」ということになったのです。僕は大学生の時に岡田さんの作品を初めて拝見して、チェルフィッチュのしゃべり方が非常に生々しく聞きました。鶴屋南北が当時の言葉を劇の中に取り入れたという「生世話」の生々しさはこういう感じじゃないかと思っていて、鶴屋南北と岡田さんというカップリングは前から頭にありました。と同時に、昨今、能狂言の台本の現代語訳や、能の様式を借りた作品、能にインスパイアされた作品を作ってらっしゃる岡田さんをお願いしてみるのがいいのではないかと。

矢作——出演者の成河さんと石橋静河さんのお二方は、どういう経緯で決められたのでしょうか。

木ノ下——俳優さんは、木ノ下歌舞伎と岡田さんとで考え、合意のもと決まっていきました。成河さんは、商業から小劇場まで幅広くやられていますし、石橋さんもテレビドラマなどの非常にメジャーなところから岡田さんの昨今の作品までと、幅広いですね。今回はフィールドを偏らずに、集まっていたいでいます。

矢作——『桜姫東文章』は、何とも不思議な話だと思うのですが、生まれ変わりだということに気がつくことは、歌舞伎では結構あるのですか。

木ノ下——歌舞伎では、基本的に生まれ変わりの場合はお互い引かれあうのです。運命の糸がいつの間にか手繰り寄せられて、前世と同じような人生を歩んでしまったり、前世の罪を償ったりと、生まれ変わった後にも前世の因果関係を引き継ぐ場合が多いです。しかし、鶴屋南北はとこそ逆手にとっています。オープニングだけを見たら当然桜姫と清玄はもう一度惚れあう展開なのですが、なぜか桜姫は一切興味を示さない。そういう裏切りというかオープニングの段階から突き抜けているのです。だから本当に不思議な話ということに尽きるのですが、歌舞伎の中でもなかなか特異な作品です。

矢作——桜姫という登場人物の設定を、どう自分事に置き換えるのか。え、本当に?という感じもありますが、このあたりは。

木ノ下——本当にそうですね。これをどう自分事にするのかがとても難しい。そこが一番肝だと思っています。どの登場人物にも感情移入できない。『義経千本桜』だとひとまず知盛のつらさに気持ちは持っていかれるし、『心中天の網島』なら、奥さんなのか心中する2人なのか、どちらかには何かしらの思い入れを持てるのです

が、これはとうはできてない。これまでの木ノ下歌舞伎は、古典で観ているとイマイチよくわからないが、現代化することで人物に共感できたり「こういう話だったんですね、この物語」という見せ方を得意としてきました。今回はそれだけだと押し通せなくて、桜姫に感情移入してみせようとする、破綻するのです。言っていることとやっていることに一見、整合性がないのですから。

岡田さんはこの桜姫を選んだ理由に、これは価値観を扱える物語だと強くおっしゃっていました。多様な価値観をこの『桜姫東文章』では扱うことができます。まず、いろんな階層の人が出てきます。桜姫とか清玄とか、割と社会的なステータスの高い人もいれば、非人とか乞食とか、ある種社会をちよつと遠巻きにみているような存在や、桜姫たちになんとか幸せになってもらおうと頑張る家来とか、いろんな価値観をもった人が入り乱れている。だからこと、モラルとアンモラルっていうものをこの『桜姫東文章』では扱えるんじゃないかと。清玄の桜姫に言い寄るところも、初めは結構モラルです。恋愛感情はなくていいからひとまず仮の夫婦になって非人という身分から抜け出そうとか、様々理屈をつけて言い寄るのです。それが叶わないと、単純に自分の恋の欲望だけになり、お坊さんという立場からみれば、完全にアンモラルな色欲に走ってしまいます。桜姫も、最終的には仇討ちをするために自分の子供を殺すロジックですから、モラルを取り戻そうとした瞬間、子殺しというアンモラルに走る。そういう1人の人物の中で矛盾した状態がずっとあるところが『桜姫東文章』の大きな魅力だと思います。

矢作——旗揚げから16年ということですが、それについていかがでしょうか。

木ノ下——16年たつと、旗揚げのころに産まれた子どもがぼちぼち高校生になって自分の意思でお芝居を観に来るような歳になってくる。ということは、16年前に観始めてくれた人は、もう、社会の中では中堅になっています。世代がぐつと変わるといふか、それまでよく来てくださっていたお客さんの層が確実に1世代ずれ込みます。それは集客という話ではなく、1世代変わると価値観も変わるから、どこかで若返りといふか、気の入れ替えをしていかないと厳しい。木ノ下歌舞伎として16年やってきて、ある種のカラーも出来上がって、ある程度定着してきました。定着はマンネリと紙一重なので、1回揺さぶりをかけることのできる演出家の岡田さんにこの辺でお願いしたほうがいいのではないかと考えたのです。『桜姫東文章』はそういう意味で非常にチャレンジングな演目です。特に、ジェンダーをめぐる問題がこの16年ぐらいでどんどん表面化してきています。桜姫の話を単純にロマンだと言い切ってはいけない、現代のジェンダー観を『桜姫東文章』がどうアップデートしていくかという問題が出てきます。『桜姫東文章』を通して、木ノ下歌舞伎のアップデートを促していきたいと思っています。

矢作——ありがとうございます。

聞き手 矢作勝義 種ノ国とよはし芸術劇場POLY「芸術文化プロデューサー」

木ノ下歌舞伎として16年
価値観にチャレンジする演目です。

監修・補綴
木ノ下裕一

木ノ下裕一[きのした・ゆういち]ノ下歌舞伎主宰
1985年和歌山市生まれ。2006年、京都造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『隅田川』『三人吉三』『糸井版 摂州合邦辻』『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』など。2016年に上演した『勅進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回(令和元年度)京都府文化賞奨励賞受賞。令和2年度京都市芸術新人賞受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎、神田伯山の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

ピーピング・トムからのメッセージ

2023年、いよいよ日本で『マザー』を上演できますこと、私たちピーピング・トムにとってこの上ない喜びです。ピーピング・トムは2009年に『土の下 / le Sous Sol』で初来日を迎えて以来、日本とはこれまで長く特別な関係を築いてきました。日本の観客のみならず、私たちにとっていかに重要な存在であることか。この度みなさまとお会いできること、そして『マザー』の世界にお招きできる日を心待ちにしてきました。何よりもまた、日本の“シニアキャスト”のみならずと共演できることが楽しみでなりません！

ピーピング・トム ガブリエラ・カリーソ

ピーピング・トム／ベルギーを代表するダンスカンパニー Les Ballets C. de la B. の中心メンバーとして活躍してきたガブリエラ・カリーソと、フランク・シャルティエによって2000年に結成。未知なるダンスの創造を目指してカンパニーを「ピーピング・トム＝覗き屋」と命名。

ダンサー、俳優、オペラ歌手ら、ジャンルも国籍も、世代すらも多様なアーティストたちが生み出す驚異のパフォーマンスは、伝説の舞台としてダンス史にその名を刻む。

ネザールランド・ダンス・シアターやリヨン・オペラ座、ヨーテポリ・バレエ、マルセイユ・バレエなどへの作品提供や、近作にヘンリー・パーセルのオペラ『ディドとエネアス』(21年)の演出や、NDTに振付した『TRIPTYCH』(20年)のカンパニーオリジナル版のバリ・オペラ座公演など幅広く活躍。2015年には英・ローレンス・オリヴィエ賞「最優秀ダンス作品賞」(『ヴァンデンブランデン通り32番地』)を受賞し、“見逃してはならないカンパニー”の上位に名を連ねる。

TOPICS:1

2023年2月23日[木・祝]15:00開演

構成・演出＝ガブリエラ・カリーソ

ドラマツルク・演出補佐＝フランク・シャルティエ

会場＝PLAT主ホール

ピーピング・トム

『マザー』

世界中に熱狂的なファンをもつ
カンパニーが6年ぶり待望の来日上演



社会を切り取る身体 白井晃

世田谷パブリックシアター芸術監督

部屋の中になだれ込んだ土砂。土の中から現れる人。静かに意味を提示してくる部屋。そして、無言で繰り広げられる悲喜交々なドラマ。『土の下』を最初に観た時、これはダンスなのか？いや、ダンスではない、言葉を排した演劇ではないか！と心の中で叫んでいた。ピナ・バウシュが初めて日本で上演した『カフェ・ミューラー』『春の祭典』以来の衝撃を受けた。ピナの作品を観た時、ダンスと演劇の境界線を越えた表現(ダンス・シアター)に猛烈な刺激を受けた。言葉がなくても身体が物語るドラマがあったからだ。

ベルギーのカンパニー、ピーピング・トムが表現しようとするものは、さらに鋭角的だった。ピナの作品群が、個人の中にある記憶や感情からドラマが立ち上がるのに比して、ピーピング・トムの表現には私たちが生きる社会、環境が登場人物たちに内包されている。この姿勢は作品が進むに連れて加速しているように思える。

2017年に穂の国とよはし芸術劇場PLATでも上演された『ファーザー』では、街の片隅にある老人ホームが舞台となっている。緩やかにうごめく老人たちの記憶と、訪問する家族葛藤が厳しく鋭く表現される。目を疑うようなアクロバティックな身体表現は、ダンスの枠組みを超えた強度で私たちに圧倒し、何もかもが舞台表現の常識を覆す。

今回上演される『マザー』は、この『ファーザー』と連作的な意味合いを持っているようだ。ひとりの母親の死。病院の待合室のような空間の中で、家族が晒される現実と幻想が錯綜していく。ここにもまた、私たち現代人が抱える医療や家族の問題が、痛みや悶えを伴って鋭く表現される。そして、私たちが襲ったパンデミックは、この作品を持つ意味を更に強く訴えることになるだろう。

もはや、ダンスなのか、演劇なのかという問いは不要だ。確かに言えるのは、社会の歪みを覗き見る、舞台表現の前線がそこにあるということだ。

3年前に上演予定だったこの作品が、こうして来日公演が可能になったことを素直に喜びたいと思う。

白井晃[しらい・あきら]／演出家・俳優。早稲田大学卒業後、1983～2002年、遊◎機械/全自動シアター主宰。現在は、演出家として数多くの作品を発表する一方、俳優としても活躍。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞、05年演出『偶然の音楽』にて湯浅芳子賞(脚本部門)、12年演出のまつもと市民オペラ『魔笛』にて佐川吉男音楽賞、18年演出『バリエーター』にて小田島雄志・翻訳戯曲賞などの受賞歴。2022年の演出作品に『アルトゥロ・ウイの興隆』『2020』『住所まちがい』など。14年～16年KAAT 神奈川芸術劇場アーティストティック・スーパーバイザー、16年～21年KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督。22年4月より世田谷パブリックシアター芸術監督。

東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会

2023年2月5日[日]16:30開演
出演=円光寺雅彦(指揮)、佐藤晴真(チェロ)、
東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)
会場=ライブポートとよはしコンサートホール



佐藤晴真 ©Seichi Saito



2022年10月 東京フィルハーモニー交響楽団「平日の午後のコンサート」

豊潤な響きと
熱いクライマックス。
寄稿 飯尾洋一 音楽ジャーナリスト

近年の日本のオーケストラの充実ぶりには目を見張るものがある。個々のプレイヤーの技術的な水準は着実に高まっており、なおかつオーケストラ全体のアンサンブルの精度や作品に応じた柔軟な表現力も、年を追うごとにレベルアップしている実感がある。東京フィルも例外ではない。加えて、このオーケストラは輝かしく華麗なサウンドを持っている。2月の特別演奏会では、そんな東京フィルの豊潤な響きをたっぷり味わえることだろう。

指揮を務めるのはベテランの円光寺雅彦。ウィーン国立音楽大学に留学し、1981年に帰国すると東京フィル副指揮者に就任し、1986年から91年までは同楽団指揮者を務め、東京フィルとは長年にわたる信頼関係を築いている。また、正指揮者を務めた名古屋フィルをはじめ、国内主要オーケストラのほとんどと共演し、欧州の舞台にも立つ経験豊富なマエストロである。

一方、ソリストとして招かれる佐藤晴真はいま熱い視線が注がれる新進気鋭のチェロ奏者だ。1998年名古屋市出身。2019年に難関として知られるミュンヘン国際音楽コンクールで優勝を果たして、一躍国際的な注目を集めた。以来、ベルリンを拠点として、国内外でオーケストラとの共演を重ねるほか、室内楽やリサイタルでも好評を博している。齋藤秀雄メモリアル基金賞、

出光音楽賞、日本製鉄音楽賞など、若い奏者に与えられる賞を次々と獲得し、次代を担う新星として期待を集めている。

今回のプログラムは傑作ぞろいだ。モーツァルトの歌劇『劇場支配人』序曲、チャイコフスキーの「ロココ風の主題による変奏曲」(佐藤晴真の独奏)、ラフマニノフの交響曲第2番の3曲が並べられた。チャイコフスキー作品は独奏チェリストとオーケストラのために書かれており、チェロ協奏曲と同様の編成を持つ。したがって、これは序曲、協奏曲、交響曲が並んだオーケストラ・コンサートの標準的なプログラムといってよい。まず軽快な序曲で幕を開けて、続いて協奏曲で人気ソリストの妙技を堪能し、最後に交響曲で雄大な音のドラマに身を浸す。オーケストラの醍醐味を味わうという点で、序曲、協奏曲、交響曲の「3点セット」は不滅の組合せだ。

さらに、この日のプログラムには「隠しテーマ」がある。モーツァルトを終生にわたって敬愛したのがチャイコフスキーであり、そのチャイコフスキーを心より尊敬していたのがラフマニノフであった。共鳴する大作曲家たちの名曲を通して、モーツァルト、チャイコフスキー、ラフマニノフという音楽史の流れをたどるプログラムになっている。

チャイコフスキーは幼少時からモーツァルトの音楽に魅了され、しばしば偉大な先人から受けたインスピレーションを作品に反映してきた。今回演奏される「ロココ風の主題による変奏曲」もそんな古典回帰的な性格を持った作品のひとつ。また、ラフマニノフにとって、チャイコフスキーは33歳年上の同じロシアの大作曲家である。チャイコフスキーは若き日のラフマニノフの作品を聴き「この作曲家の将来は大いに期待できる」とその才能を正しく見抜いた。ラフマニノフは偉大なチャイコフスキーから影響を受けながら、やがて独自の作風を切り拓いてゆく。

それぞれの曲の魅力にもふれておこう。モーツァルトの歌劇『劇場支配人』序曲は、いかに幕開けの音楽にふさわしい躍動感を備えている。少し前までテレビ朝日系列の「題名のない音楽会」のオープニングテーマに使用されていたので、耳にしたことのある方も多いのでは。

チャイコフスキーの「ロココ風の主題による変奏曲」では、チェロの独奏が名技を披露し、オーケストラがこれにびたりと寄り添う。「ロココ風」とはもともと美術や建築で使われる言葉だが、クラシック音楽の分野では古い

時代の優雅で洗練されたスタイルを指すことが多い。独奏チェロが古風で上品な「ロココ風の主題」を弾いて、それが次々と形を変えながら変奏されて、多彩な表情を生み出す趣向になっている。

ラフマニノフの交響曲第2番はこの作曲家ならではの流麗なメロディにあふれた傑作だ。ラフマニノフといえば本人が大ピアニストだったこともあって、ピアノ曲の作曲家という印象が強いかもしれないが、実はオーケストラの分野でもその天才性はあますところなく発揮されている。全4楽章という古典的なフォーマットを採用しながらも、全編にわたってスラヴ的な憂愁をたたえ、濃厚なロマンティズムが充満するという点で、まさにチャイコフスキーの衣鉢を継ぐ傑作交響曲といってもよいだろう。特に第3楽章アダージョの甘美な旋律は、ラフマニノフの全作品中でも屈指の名旋律。終楽章の高揚感も格別だ。エネルギーで推進力あふれる楽想には、躍進する30代前半の作曲者の姿が重なる。「愁い」で始まって「勝利」で終わるという点では(として)短調という調で書かれている点でも)、チャイコフスキーの交響曲第5番と共通する性格を持っている。

円光寺雅彦率いる東京フィルがひりひりするような熱いクライマックスを築いてくれるにちがいない。

TOPICS:2

INFORMATION

PLAT主催・共催公演情報



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演

マイセレクト4
2022

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]●オンライン
http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]●チケット販売＝販売初日は
オンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U25[25歳以下]：公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下：1,000円●購入方法＝各
公演の一般発売初日から取扱い。●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指
定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

ピーピング・トム『マザー』



撮影：Herman Sorgeloos

市民と創造する演劇『悲劇なんてまともじゃない』



山田佳奈

MONO『アユタヤ』(2021年)舞台写真



撮影：谷古宇正彦

プラットワンコインコンサート



SIGNAL
撮影：Ayane Shindo



石塚和基
撮影：TAKUMI JUN



濱田紗治伽



千賀さゆり&安成紅音リートデュオ

1/24 [火] 19:00 開演

小曾根真 ニューイヤール・ジャズライブ ディキシランド・メモリーズ

ジャズピアニスト・小曾根真が、スペシャルゲストに北村英治を迎え、豪華メンバーでお贈りするニューイヤールコンサートです。
●出演＝小曾根真(ピアノ)、北村英治(クラリネット)、中川喜弘(トランペット)、中川英二郎(トロンボーン)、小曾根啓(サクソフーン)、中村健吾(ベース)、高橋信之介(ドラムス)
●会場＝PLAT主ホール
●料金＝[全席指定]S席一般6,000円、A席一般4,000円ほか
[特別協賛＝サーラグループ]

好評発売中

1/31 [火] 18:30 開演

ぷらっと落語会 ～一月晦日の初笑い～

●出演＝三遊亭小遊三、桂文月、ナオユキ、三遊亭金の助ほか
●会場＝PLAT主ホール
●料金＝[全席指定]一般3,000円ほか

好評発売中

2/5 [日] 16:30 開演

東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会

●出演＝円光寺雅彦(指揮)、佐藤晴真(チェロ)、東京フィルハーモニー交響楽団
●会場＝ライブポートとよはしコンサートホール
●料金＝[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,500円ほか

好評発売中

2/18 [土] 13:00 開演

木ノ下歌舞伎『桜姫東文章』

●作＝鶴屋南北
●監修・補綴＝木ノ下裕一
●脚本・演出＝岡田利規
●出演＝成河、石橋静河、高山のえみ、武谷公雄、足立智充、谷山知宏、森田真和、板橋優里、安部萌、石倉来輝
●会場＝PLAT主ホール
●料金＝[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか
※18日(土)は終演後トークあり。
※19日(日)は視覚に障がいのあるお客様のための「リアルタイム音声ガイド」サービスあり(要事前予約)。

好評発売中

2/23 [木・祝] 15:00 開演

ピーピング・トム『マザー』

●構成・演出＝ガブリエラ・カリオン
●ドラマトウルク・演出補佐＝フランク・シャルティエ
●会場＝PLAT主ホール
●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか

好評発売中

【関連募集】

シニアキャスト募集

今回ご出演いただく【シニアキャスト】を一般公募いたします。世界が注目するカンパニーとともに、PLAT主ホールの舞台上、ニューススタイルのダンス作品に出演してみませんか？
●対象＝舞台やダンスに興味のある60～70代程度の、舞台上を杖なしで歩行できる健康な方。演劇・ダンス経験不問。劇場が指定する稽古スケジュールに参加可能な方。

●定員＝6名程度
●審査＝[1次]書類[2次]面接
●申込方法＝2023年1月15日(日)17時までに①参加申込書に必要事項を記入の上、窓口へ持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ピーピング・トム

過去作品上映&プレトーク

ピーピング・トム作品を2009年より招聘している世田谷パブリックシアターの三上さおりさんとPLAT職員が、ダンス解説や見どころを語り合います。また、2月8日(水)には、ピーピング・トムの過去作品を1日かけて特別に上映します。
●料金＝無料
●申込方法＝①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

1月15日[日]

12:30～上映／14:00～プレトーク／15:20～上映
●会場＝PLAT創造活動室B
●定員＝25名程度

2月8日[水]

【過去作品上映】10:00～／13:30～／15:00～／19:00～
※各回別作品を上映します。詳細はホームページをご確認下さい。
●会場＝PLATアートスペース
●定員＝200名



東京フィルハーモニー交響楽団
特別演奏会

3/4 [土] 14:30 開演

3/5 [日] 14:30 開演

市民と創造する演劇『悲劇なんてまともじゃない』

□字ック主宰・劇作家・演出家の山田佳奈の演出により、W.シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』をモチーフにした作品を、オーディションで選ばれた市民と共に創り上げます。
●会員先行＝1月7日(土)●一般＝1月21日(土)
●原作＝ウィリアム・シェイクスピア
●上演台本・演出＝山田佳奈
●出演＝オーディションで選ばれた市民
●会場＝PLAT主ホール
●料金＝[全席指定]一般2,000円、U25 1,000円、高校生以下500円
※4日(土)は終演後トークあり。
※5日(日)は視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり(要事前予約)。

3月4日のみ

【関連募集】

市民と創造する演劇 市民スタッフ募集

オーディションで選ばれた出演者、プロスタッフとともに一緒に作品を作り上げてゆく、市民スタッフを募集いたします。
●対象＝高校生以上で、2023年1月～3月5日(日)に市民スタッフとして舞台づくりに積極的に参加してくれる方。
●活動期間＝2023年1月～3月5日(日)
●定員＝なし
●申込方法＝12月28日(水)までに①参加申込書に必要事項を記入の上、窓口へ持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

3/18 [土] 14:30 開演

3/19 [日] 14:30 開演

MONO『なるべく派手な服を着る』

2008年に上演した作品の再演。四つ子を含む男ばかりの6人兄弟の久里一家。父危篤の知らせを受けて集まった愚かて愛おしい兄弟達を巡る物語。
●会員先行＝1月7日(土)●一般＝1月21日(土)
●作・演出：土田英生
●出演＝奥村泰彦、水沼健、金替康博、土田英生、尾方宣久、渡辺啓太、石丸奈葉美、高橋明日香、立川茜
●会場＝PLATアートスペース
●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか

3月18日のみ

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
●会場＝PLATアートスペース
●料金＝[全席自由・整理番号付]500円

好評発売中

12/23 [金] 14:00 開演

『Percussion Theater ～劇場音楽の調べ～』

SIGNAL
小林公哉(打楽器)、成田花南(打楽器)、柴田知明(打楽器)

好評発売中

2023/1/5 [木] 11:30 開演

『ヴァイオリンでスパイシー＆ファンキー』

石塚和基(ヴァイオリン)

2023/2/14 [火] 14:00 開演

『心躍るリズムと音色～知られざる打楽器の世界へようこそ～』

濱田紗治伽(打楽器)
●会員・一般発売＝12月22日(木)

2023/3/24 [金] 18:30 開演

『春を告げる歌曲たち』

千賀さゆり&安成紅音リートデュオ
千賀さゆり(ソプラノ)、安成紅音(ピアノ)
●会員・一般発売＝12月22日(木)

ワークショップ・レクチャー

2023/1/29 [日] 13:30 開演

ワークショップファシリテーター養成講座

2022[後期]『まちを知る、考える』発表会

ワークショップファシリテーター養成講座の受講生が、豊橋の人や場所を取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、短い演劇を創り上演します。劇場の中に広がる小さな豊橋をご確認ください。
●監修＝すぎきこた、柏木陽、吉野さつき
●会場＝PLAT創造活動室A
●料金＝無料
●定員＝40名(申込順)
●申込方法＝①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

「カーテンコールを待っている」

芸術文化アドバイザー
桑原裕子



「カーテンコールで泣いてはいけません。自分たちが感動しているところをお客さんに見せる時間ではないのです。舞台上で客席にしっかり挨拶をする、それがプロです。」

高校時代の初舞台で演出家にそう教わって以来、常にその約束を遵守してきました。

……というのは嘘で、何度か禁を破ったことはあります。近年では以前ここにも書いたけれど、コロナ禍一発目の劇団公演。徹底した感染対策を過剰ともいえるほどに行い、自粛による中止が相次ぐなか一席あきの客席でどうにかこうにか本番の幕を開けることができたとき、舞台上で挨拶する段になってつい、ウツと喉が詰まりました。

あるいはもっと前、初めて地方に滞在して舞台製作を行ったとき。

東京から遠く離れた地で作った舞台の千穂楽。もう二度と同じメンバーで公演することはないのだろうという刹那。ひとりひとりが愛おしく誇らしく、見えやしない客席でタオル片手にひっそりズルズルやっていた私に、キャストたちは礼をした後、スッと手を伸ばしました。カーテンコールで演出家が舞台上に上げられる(こともある)文化を私は当時知らず、いや小劇場ではまずないことなのですが、もちろん断ったものの、キャストたちが今でも忘れられないほどそれはそれは優しい顔をしていたから、結局導かれるままに舞台上へ……タオル持参で……未だに一番恥ずかしい思い出でもあります。

一方小劇場では昔「カーテンコールをやらない」というスタイルが、狭い界限で流行ったこともあります。

終演すると音もなくシラーと客席の灯りがつく。舞台上は「誰か出てきそう」な気配を残し

てがらんどうのまま、やがて制作がやってきて「本日の公演は終了しました」とアナウンス。観客は「あれ…?」とやや戸惑った様子でぼつぼつと劇場を後にする。私が観に行った舞台はそんな感じでした。

やらない方がクールじゃない?誰かがそう思ったのでしょうか。余韻を楽しんで欲しいからね、と認知顔で言う人もいたかもしれません。しかし最終ページの後、あとがきもなしで著者紹介、そんな単行本みたいな余韻は舞台に不向き。なぜって舞台裏に人間の気配がするからです。あなたたち、いるのに出てこないの?キャストは既に着替えていたり、劇場裏で煙草を吸っていたりするのでしょ。それを想像すると「すかしてんなあ」と鼻についたりして。

私は終幕後の俳優の顔を見るのが好きです。先ほどまで死の床で絶叫していたはずのキャストが晴れ晴れと挨拶している時は面白いし、まるで畏敬の念を示すかのごとく潤んだ目で客席を見渡す表情に感動が倍になることも。恐ろしい役を演じていた俳優が人なつこい笑みを浮かべているのも、奔放に跳ね回っていた子が人見知り全開でうつむきがちにする挨拶も、いかにもめんどくさそうに棒立ちしている俳優も、どれも味わい深いです。客席側もそれらの俳優に呼応し、手が痛くなるほど拍手を送るときもあれば、わざと低めの位置で手を叩くことも、感涙にむせいで手が叩けないときもあるし、ダブルが来るとわかってるくせに、これ見よがしに席を立つこともあります。

この、キャストと観客の間にある言葉のないコミュニケーションも含めて舞台の余韻なのです。だからカーテンコールなしのク

ル(?)なスタイルは当初からすこぶる評判が悪く、観客にもキャストにも残される余韻がうら寂しさだけということで、あつという間に廃れました。

千穂楽のカーテンコールはまた格別です。内心「やっとなつた」と息をつく舞台もなかつたわけではない……ですが、大体は、やりきった達成感と終わってしまう寂しさ、その瞬間を見届けに来てくれたお客さんへの感謝でいっぱい。あらゆる感情を抱いて劇場にいる全員で終わりを見届け、日常へ、あるいは別の世界へと扉を開く大事なセレモニー。

ですが先日私が出演していた公演に、セレモニーはありませんでした。千穂楽を目前にして公演中止。理由は言わずもがなです。上演時間に私たちはPCR検査をしていました。

私にとって千穂楽に中止という経験はこれで二度目。慣れることはないものです。

後日関係者がある動画を送ってくれました。再生すると舞台監督の号令とともに、馴染み親しんだ舞台の上に美しい七色の紙吹雪が降り注ぎました。千穂楽のカーテンコールのため、スタッフが内緒で用意してくれたサプライズだったのです。寂しさと温かい気持ちが同時に押し寄せ、「ほんとうに終わったんだ」と自覚しました。舞台上で色とりどりに散らばる紙吹雪の画像を見ながら、きつと現実でもそうしたらどうかと、心の中でそつと掴み、自分や仲間の頭上にまきました。会えなかつたお客さんの頭上にも。

お疲れ様でした、ありがとうございました。

がらんどうの舞台が「誰か出てきそう」な気配を残し、いまだにカーテンコールを待っている気がします。

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
 http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
 呉服町48 TEL.54-4848

魚伊 株式会社
 電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
 電話 053-464-3015

ケンチク 701
 KURONO ARCHITECT STUDIO
 y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタジオ
 豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
 TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
 豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
数きく宗
 豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
 豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
 三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
 三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
 十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店
若松園
 御菓子司

気まぐれコンサート
 事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場
パ・ク500
 プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
 理事長 塩之谷 昌
 豊橋市植田町閑取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **あくわ**

井上皮膚科クリニック
 診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
 土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
 電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
 豊橋市小池町36番地1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
 院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
 書道用品専門店
高誠堂
 豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
 豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
 サラグループ

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00~19:00]
 オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

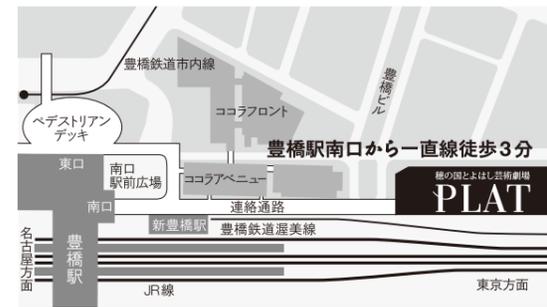
- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U25・高校生以下割引のご案内

- ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
- 料金
 U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額
 高校生以下:1,000円
 - 購入方法
 各公演の一般発売初日から取扱い。
 - その他
 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
 座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
 一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
 令和4年12月29日(木)~令和5年1月1日(日)
 なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。24時間対応いたしております。休館中のチケットのお引き取りについてはご予約の際にご確認ください。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
 電話=0532-39-8810[代表](9:00~20:00)
 開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
 第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
 豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
 新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
 お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT